

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
SPARC 小委員会 (第 25 期・第 2 回) 議事要旨

1. 日時：令和 4(2023)年 7 月 28 日(木) 12:00~13:00

2. 会場：遠隔会議 (Zoom) (主催会場：東京大学)

3. 出席者

委員：佐藤 薫、秋吉 英治、江口 菜穂、河谷 芳雄、小林 ちあき、田口 正和、富川 喜弘、菅原 敏、原田 やよい、廣岡 俊彦、藤原 正智、堀之内 武、三好 勉信、余田 成男、渡辺 真吾

オブザーバー：高麗 正史、坂崎 貴俊

欠席者：木下 武也(オブザーバー)

4. 配布資料

資料 1：前回議事要旨

5. 議事内容

(1) 2022 年 JpGU 連合大会における SPARC セッションの開催状況について

- ハイブリッドで開催し、18 件の口頭、ポスター発表があったこと、参加者が 70 名を超えたこと、JpGU 学生優秀発表賞に SPARC セッションから 1 名受賞が出たことが報告された。

(2) 今後の日本気象学会での活動について

- 2022 年秋季大会で予定していた SPARC 専門分科会は、SPARC General Assembly と時期が重なったので、2023 年秋季大会に延期することが確認された。
- 日本気象学会において SPARC 研究連絡会を立ち上げることにに関して議論を行った。11 月の理事会に諮るため、趣旨書を 10 月半ばに事務局に提出することが確認された。

(3) SPARC 活動に関する情報共有

- SPARC Gravity Workshop Symposium (3/28-4/1)に関して、ハイブリッドで開催され参加者が 154 名であったこと、日本人参加者は少なかったこと、発表者の現地時間に合わせてプログラムが設定されていたので、無理なく参加できたこと、詳細は SPARC News Letter に記事になっていること、が報告された。
- QBO 気候モデル国際比較プロジェクト (QBOi) のオンライン会合が 6 月 21-22 日に開催され、第 1 期の論文化が終わり新たに第 2 期が始まること、第 2 期の実験として QBO-ENSO 実験やナッジング実験が始まっていること、新たな実験案が出されたこと、が報告された。
- QBO の Review paper が Nature Reviews earth & environment 誌に受理されたことが報告された。
- 2022 年 10 月に開かれる SPARC General Assembly に参加する日本人研究者の予定が報告された。